

氏名・学年	〇〇 〇〇（〇〇小学校 5年 男）	本人の願い	みんなと仲良くしたい。 勉強をがんばりたい。		記入者	〇〇 〇〇
保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と仲良く学校生活を送ってほしい。</li> <li>・何をすることもよく考えて行動してほしい。</li> </ul>					
長期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちをコントロールする方法を知り、その場に応じた態度を身に付けられようになる。</li> </ul>					
区分	児童の実態	短期目標	指導内容・指導方法（手立て）		評価	
健康の保持						
心理的な安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の行動を注意されたときに、反発して興奮を鎮められなくなることがある。(2)</li> <li>・自分の気持ちを伝えることが苦手で、思いが通じないときに自分をたたくことがある。(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興奮しそうなときや興奮したときに自分からその場を離れることができる。</li> <li>・自分の気持ちを伝える手段を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのような場面になりそうなときには、その場を離れること、何分経ったら教室に戻ってくるなどを担任に伝えることを約束し、カムダウン部屋へ移動するように促す。</li> <li>・人に伝えるときにはどのような行動をとればよいのか、イラストや絵カードを使って学べるようにする。まずは、自立活動の時間において学習し、徐々に交流学級等で般化できるようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・イライラすることはまだまだあるものの、一定期間その場を離れることを伝え、時間内に学級に戻ることができた。最近、その場を離れるだけでなく、教室内（机の中）でボールなどの好きな感触に触ることで落ち着いて授業に参加できることも増えつつある。</li> <li>・こんなときはどうするのか、具体的な場面を想定し、イラストや絵カードを使った学習に取り組むことで、自分の気持ちを伝える手段が身につくにつつある。交流学級では、授業中に担任にそっと「わかりません」カードを差し出すことができた。</li> </ul>	
人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが苦手なことが多い。言葉を字義どおりに受け止めてしまい、相手の真意の読み取りを間違えることがある。(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場に応じた適切な行動をとることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情、相手が考えていることなどを推測できるように、いろいろな様子が描かれたイラストやコミック会話等を使って学習を行う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の時間で、学習したことをいつでも思い出せるようファイルにし、実際の場面で忘れたときに取り出せるようにした。すると、学習したことは、般化できるようになりつつある。</li> </ul>	
環境の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な音があったり、たくさん音がある状況で必要な音だけを聞き取ることが難しいなどの聴覚過敏がある。そのような状態になったときには、離席し、黙って教室から出ていくことがある。(2)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の苦手な音を知り、自分で対処できる方法を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノイズキャンセルヘッドフォン等の音量を調節する器具を利用する。どうしても我慢ができないときには、その場から離れてもいいことにするが、必ず、教員に伝えてから行動するように約束をする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の苦手な音（机や椅子を動かす音、シンバルの音、甲高い声など）が分かり、ノイズキャンセルヘッドフォンを使用すると離席することが減った。事前に苦手な音が出る状況を知らせると、教員に伝え、そのときだけ音源から離れることができています。</li> </ul>	
身体の動き						
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助けてほしいときに援助を求められなかったり、状況にそぐわない受け答えをしたりすることがある。(5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場面や相手の状況に応じた対応を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場に応じた声の大きさが分かるように、イラストを使ってボリュームが分かるように指導する。</li> <li>・困ったときや手伝ってほしいときにカードを使用して、伝えられるように繰り返し学習を行い、交流学級等でも般化できるように促す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・声の大きさについては、交流学級とも共有したことで、スムーズに般化できている。</li> <li>・学級では担任に伝えることができたし、交流学級でも、経験したことはできるようになった。しかし、初めての状況で助けて欲しい場面になると、課題が残る。</li> </ul>	

※自立活動の区分・項目は、全て記入する必要はなく、児童生徒の実態に応じて選択します。

※該当する自立活動の項目を（ ）内に表しています。

教科等	児童の実態	短期目標	指導内容・指導方法(手立て)	評 価
音楽	・音楽は好きな学習であるが、シンバルなどの大きな音が苦手だったり、甲高い声で歌っているCDを聞くと、耳を塞ぐことがある。	・苦手な音を知り、自分で対処できる方法を身に付ける。	・音楽担当者と共に、授業中に苦手な音を使用する場合には、事前に本人に音源から離れても良いことを伝える。どうしても我慢ができないときには、その場から離れても良いことにするが、必ず、教員に伝えてから行動するように約束をする。	・事前に知らせておくことで安心して授業を受けることができている。また、我慢ができないときには、教員に伝え、そのときだけ音源から離れることができている。
その他 特記事項				

※各教科については、児童生徒の実態に応じて選択します。